



川上啓子氏

54人目

川上啓子氏市民後見人受任

知らない方でも

知らない方でもなくります

川上啓子

私は平成30年、広報苦小牧で成年後見人制度を知り、直ぐに市民後見人養成講座に申し込み受講。無事修了し、後見支援センターに登録しました。

その後、センター職員の方から「会報に掲載したいので記事をお願いします」と依頼され、文章力のない

市民貢献人

会報

苦小牧市後見支援員等連絡会
発行人：三河敏規
☎38-7291
FAX38-7292

私が四苦八苦しながら会報第11号「人はひとりでは生きていけず、お互いに助け合い励まし合い」の見出しで、私の考える市民後見人像について書いたのが、ごく最近の様に思い出されます。あれから8年になるのですね。月日の経つのは早いものです。

最近、感じている事がふたつあります。

私は、ボランティア活動の合間に遊歩道を散歩するのが、日課になっています。たった一言の「こんにちは」の挨拶が、次お会いすると「こんにちはは、今日は天気が良いですね」また次お会いすると「久しぶりですね。お元気でしたか」会話はどんどん繋がって、知らない方でも知らない方でもなくなります。

それが嬉しくって散歩するのです。

もうひとつ最近感じている事は、言葉です。

「その一言」で励まされ、夢を持ち、腹が立ち、がっかりし、泣かされる。ちょっとした一言が人を傷つけたり、人を楽しい心にしたたり、人の心を穏やかにしたりします。

言葉は無限の可能性と大きな力を持っているのかも知れませんね。

これからも色々なボランティア活動をしながらになります。成年後見支援センターの方々にお世話になりながら、判断力が低下した方の生活を身近な立場で寄り添い、見守りながら、微力な私ですが、少しでもお役に立てれば嬉しいです。また、研修会や講演会に積極的に参加出来ればと考えています。これからも、どうぞ宜しくお願いします。



高崎智絵氏

55人目

高崎智絵氏市民後見人受任

成年後見人の方は

利用者さんが安心して

暮らすためのパートナー

高崎智絵

私は、普段ケアマネージャーとして働いています。その中で、後見制度について耳にする事も多く、私が担当している利用者さんの中にも後見制度を利用していらっしゃる方がいて、実際に後見人の方に支えられる場面を目の当たりにする事が少なくありません。

その姿を通じて、後見人の方は利用者さんが安心して暮らすための大切なパートナーであるという事を実感し、私自身、もっとよく制度の事を知りたいと思うようになり、市民後見人養成講座を受講する事を決意しました。

実際に活動を始めたらまだ日は浅いですが、やはり、支援を必要とする方のことを、よく知っていく事が、大事な事だなど、改めて考える良い機会にもなりました。

様々な事情を抱えている方が、住み慣れた環境で、その方らしく生活が続けられるように市民後見人の一人として支えていけたらと思います。

まだまだ不安な事が多いですが、後見センターの温かいサポートを受けながら一つひとつ経験を積み、少しでも地域福祉に貢献できるように頑張っていきたいと思っています。